

キャリア教育・就職支援ワークショップ「産学連携教育に向けた期待と要望」

■日時：2017年1月24日（火）13：00～17：00（グランフロント大阪北館タワーB10階）

■講師：植松高志（堺経営者協会 専務理事。堺・南大阪地域インターンシップ推進協議会会長）

□経営者協会

◇戦後まもなく（1945～50年）各都道府県に経営者協会が発足。激しい労働運動に対応するため、経営権の確立を図り、正常な労使関係の安定化と産業平和の確保による地方経済の興隆を目的に設立。労働問題の研究・調査・指導を行う機関として活動。労使協調の昨今は、経営全般および地域活性化問題が活動の柱となっている。上部団体は「経団連」。

◇堺経営者協会は1953年に発足。会員数は現在233社。主たる活動⇒経営者・労務担当責任者・若き経営者等の交流と勉強の場、労使会議の場、産学官連携による地域貢献の場と各種情報の提供。上部団体への政策提言。

■「堺・南大阪地域インターンシップ推進協議会と堺人材ネットワーク協議会」の目的と事業

	堺・南大阪インターンシップ推進協議会	堺人材ネットワーク協議会
設立:メンバー	2011年：堺市・南大阪地域大学コンソーシアム・堺経協	2013：堺市・堺経協
目 的	インターンシップ事業の趣旨・目的を踏まえて、堺・南大阪地域を中心とした企業・団体・自治体等の協力を得て、若者の人材育成に寄与する。	堺地域の企業で活躍する人材の確保・育成を図るため、若者の採用に積極的な中小事業と高等学校、大学等とのネットワーク構築の支援をする。
事 業	インターンシップの運営（就業体験型、課題解決型） （事前・事後研修会、産学交流会、報告書発行）	地域産業・地域企業の理解促進及びキャリア教育 （出前講座、企業見学バスツアー、産学交流会）

## ■「堺・南大阪地域インターンシップ推進協議会」の活動

<人員> 堺市、南大阪地域大学コンソーシアム、堺経協がそれぞれ1名の実務担当者。協議会のメンバーは9名。

<役割> 堺市(自治体受け入れ先開拓と管理)、南大阪地域大学コンソーシアム(大学への広報と学生フォロー)、堺経協(受け入れ先開拓、受入後の企業フォロー)。3者の強みを生かして協働運営。

<予算> 堺市、南大阪地域大学コンソーシアム、堺経協がそれぞれ50万円出資の150万円。南大阪地域大学コンソーシアム会員大学以外の参加校は事務手数料として1校2万円で約50万円 ⇒計「約200万円」

	2011年	2012	2013	2014	2015	2016
応募	292名	238	253	355	371	274
参加	212	210	203	257	268	212
マッチング率	73%	88%	80%	72%	72%	77%
参加大学	28校	27	34	38	38	37
受入企業団体	65企業団体	82	88	99	110	111

## ■「堺人材ネットワーク協議会」の活動

<人員> 堺市、堺経協各2名の実務担当者。協議会メンバーは、ハローワーク堺、堺市産業振興センターも加え10名。

<予算> 堺市(170万円)堺経協(50万円) ⇒計「220万円」

	2013年	2014	2015	2016
企業出前講座	大学(4講座)	大学(4講座) 高校(1講座)	大学(4講座) 高校(4講座)	大学(6講座) 高校(4講座)
社会人基礎力講座	大学(4講座)	大学(4講座) 高校(1講座)	大学(4講座) 高校(4講座)	大学(4講座) 高校(4講座)
企業見学バスツアー	学生/教職員(2回)	学生/教職員(2回)	学生/教職員(2回)	学生/教職員(2回)
産学交流会	大学(1回)	大学(2回) 高校(1回)	大学(2回) 高校(1回)	大学(2回) 高校(1回)

■学生に伝えていること（就業体験、事前・事後学習会、産学交流会、見学バスツアー、キャリア教育）

◆インターンシップの目的を認識する：期待される社会人・企業人になるために。

「自己の強みと弱みを認識し成長の目標を立てる。そして正しい人生観と職業観を持つ。」

◆企業が求める人材像を考える：現在はどんな時代か。何が若者に期待されているのか。

「企業経営の原資（ひと・もの・かね⇒最適配分）（企業目的と存在意義⇒経営理念）（社長やカウンセラーの出前講座）」

「経団連調査（企業が新卒採用で重視すること⇒コミュニケーション能力・主体性⇒プロジェクト型 IS チーム課題解決）」

「経済産業省（社会人基礎力⇒インターンシップ受け入れ先に3つの能力・12の能力要素の評価を依頼。出前講座）」

◆堺地域の歴史・文化・産業・企業を学ぶ：地域を多面的に学ぶ。

「堺の歴史・文化（世界遺産登録を目指す古墳群。自治都市。堺商人。鉄砲生産。伝統産業。利晶の杜での茶の湯体験）」

「堺の産業（ものの始まりなんでも堺。多種多様な企業とビジネスに適した立地。政令市製造品出荷額一人当たり第1位）」

◆中小企業の魅力を伝える：日本の企業の99%が中小企業。日本の就労人口の75%は中小企業で働く。

「企業見学バスツアー」「中小企業の社長による出前講座」「産学交流会」「伝統産業会館の見学」

「就職難の最大の理由：大企業志向が強い。エントリーシート・シンドローム。納得のいく仕事を見つける」

◆学生に期待すること：

「現在の就職環境を直視する（大学学部卒業生の55万人の進路⇒一時的な仕事&何もしていない人が7~8万人もいる）」

「税金の払える社会人になって欲しい（少子高齢化の日本、社会保障制度を維持継続していかなくてはならない）」

「地方創生の力になって欲しい（地方経済の成長、雇用の拡大、安心して子育てができる街、教育・文化の豊かな街）」

「日常の心構え⇒WHOの健康の定義（肉体面・精神面・社会面の健康とは）」

## ■「産学連携教育に向けた期待と要望」

### ◆具体的な施策と目標（文部科学省、厚生労働省の資料から）

○グローバル化時代に求められる高等教育の在り方⇒・「就業力」を育てる。（就職後に成長する能力）

○企業のイノベーションと人材マネジメント⇒・国内のイノベーション創出。グローバル人材の育成。

○「ディーセント・ワーク」の推進⇒「働きがいのある人間らしい仕事」が1999年第87回ILOで示された。

\*4つの戦略目標：①雇用の促進 ②社会的保護の方策の展開強化 ③社会対話の促進 ④労働における基本的原則及び権利の尊重。  
\*安心して一生暮らしていけるために、「社会保障や福利厚生、年金制度が整っている」「女性や高齢者、若年者なども安心して働ける労働環境が整っている」「それなりの報酬が得られ、子供に教育を受けさせ育てることができる」「健康や精神面の安定が確保できる」「働きがいや生きがいが見いだせる」「自らの知識・能力・技能がのびせる」⇒仕事を通して実現できることが重要。

### ◆「地域連携組織によるインターンシップ・キャリア教育の推進に向けて」

○企業にとっては人材の確保と育成が大きなテーマとなっている。大学では学びと職業選択が切れ目なくつながるように、キャリア教育の取組みとして、教育的効果が高いインターンシップを推進している。このような中、産学官の協働による人材育成を進展させるために、ISの類型化や専門人材の養成に取組み、学生と企業が共に育つ「共有型IS」を目指している。

○我々の活動を通して課題と感ずることは

①地域連携組織をどのようにして作るか⇒私たちは堺経営者協会が堺市に働きかけて組織づくりができたが、地域行政がリーダーシップをとって進める方が良いと思う。組織づくりが一番重要である。また、継続し信頼されることが大切である。

②運営における資金と担当者はどうするか⇒お互いが資金と人を出し合い運営しているが、できれば行政からの資金が出れば、専門人材による効率的で効果的な運営ができると思う。広域になる場合の資金については別途検討が必要。（以上）